スタンドアローン版 セットアップ・ガイド

Ⓙ ②

セットアップ

ソフトウェアのインストール後にスタンドアローン版を起動し、動作させるための環境設定について説明します。

スタンドアローン版の起動

1 外部MIDIデバイスとコンピューターが正しく接続されていることを確認します。

2 「KORG」フォルダ → ソフトウェア・シンセサイザーのフォルダの中にあるソフトウェア・シンセサイザーのアイコンをダブルクリックして起動します。

Windows

ソフトウェア・シンセサイザーのフォルダは Windows XP ではインストール時に選択した場所にあります。デフォルトでは「Program Files」フォルダ → 「KORG」フォルダ → ソフトウェア・シンセサイザーのフォルダの中にあります。また、タスクバーの［スタート］ボタン → ［すべてのプログラム］を順にクリックし、メニューの中から「KORG」フォルダ → ソフトウェア・シンセサイザーのフォルダから選択しても起動できます。

Mac

「アプリケーション」フォルダ → 「KORG」フォルダ → ソフトウェア・シンセサイザーのフォルダの中にあるソフトウェア・シンセサイザーのアイコンをダブルクリックして起動します。

3 システム・メニューから“ 環境設定 ”を選択します。
環境設定ダイアログの“ オーディオの設定 ”が表示されます。“ MIDIの設定 ”が表示された場合は、“ オーディオの設定 ”タブをクリックします。

note 初回起動時、何らかの原因で環境設定がクリアされた場合やコンピューターのシステム構成が変更された場合は、起動時に環境設定ダイアログが自動的に表示されます。

オーディオの設定

1 “ デバイスの種類 ”または“ デバイス ”で、オーディオ・ドライバを選択します。

Windows

ASIO: ASIOドライバを使用します。ASIOドライバでは、レイテンシーを小さく抑えることが可能なので、一番良いパフォーマンスで動作します。ASIOドライバがインストールされている場合は、この設定をおすすめします。
DirectSound: DirectSoundを使用します。ASIOドライバがコンピューターにインストールされていない場合は、この設定を使用してください。
MME: MME（Multi Media Extension）を使用します。

MMEは、他の設定に比べてレイテンシーが大きいので、MME以外の設定にすることをおすすめします。

Mac

お使いのコンピューターにオーディオ・インターフェイスがインストールされている場合は、そのオーディオ・インターフェイスのドライバが選択できます。オーディオ・インターフェイスがインストールされていない場合、選択できる設定は“ 内蔵オーディオ ”のみです。

2 オーディオ出力を設定します。

Windows

•“ デバイスの種類 ”でASIOを選んだ場合

ご使用のコンピューターにASIOドライバがインストールされていない場合は、選択できません。無効となります。

“ ドライバ名 ”
使用するドライバ（デバイス）を選択します。

“ サンプリングレート ”
サンプリング・レートを設定します。“ ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定範囲が異なります。

“ 出力チャンネル ”
出力チャンネルを設定します。かならず1-2、3-4といったペアでの設定になります。“ ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定が異なります。

note オーディオ入力があるソフトウェア・シンセサイザーのみ“ 入力チャンネル ”が表示され、入力するチャンネルを設定します。かならず1-2、3-4といったペアでの設定になります。“ ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定が異なります。

“ クロックソース ”
オーディオのクロック・ソースを選択します。“ ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定が異なります。

“ ASIO設定パネル ”
クリックすると、ASIOドライバの設定パネルが開きます。仕様や動作は、使用しているドライバにより異なります。詳しくは、使用しているオーディオ・インターフェイスの取扱説明書を参照してください。

•“ デバイスの種類 ”でDirectSoundまたはMMEを選んだ場合

“ 入力ドライバ名 ”
ドライバ（デバイス）を選択します。同じドライバが複数表示される場合があります。どれか一つを選択してください。

“ ビット / レート / チャンネル ”
オーディオ・フォーマットを選択します。“ 入力ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定範囲が異なります。

“ バッファ数 ”
オーディオ処理のバッファ数を設定します。大きい値を設定した方が動作は安定しますが、レイテンシーが大きくなります。

“ サンプル数 ”
1つのバッファのサンプル数を設定します。大きい値を設定した方が動作は安定しますが、レイテンシーが大きくなります。

レイテンシーとは、コンピューターがノート・オン・メッセージを受信して、発音するまでの時間をいいます。レイテンシーは、サンプル数×バッファ数で決まります。この数値ができるだけ小さく、かつ安定して動作するように“ バッファ数 ”と“ サンプル数 ”を設定してください。

Mac

“ ビット数 / レート / チャンネル ”
オーディオ・フォーマットを選択します。“ デバイス ”の選択によって設定範囲が異なります。

“ チャンネル ”
“ 内蔵オーディオ ”にした場合、選択できる設定はOutput1/Output2のみです。お使いのコンピューターにオーディオ・インターフェイスがインストールされている場合は、他の設定が選択できます。

note オーディオ入力があるソフトウェア・シンセサイザーのみ“ 入力チャンネル ”が表示され、入力するチャンネルを設定します。かならず1-2、3-4といったペアでの設定になります。“ ドライバ名 ”で選択したデバイスによって設定が異なります。

“ バッファサイズ ”
オーディオ処理のバッファ・サイズを設定します。大きい値を設定した方が動作は安定しますが、レイテンシーが大きくなります。

“ レイテンシー ”
レイテンシーが表示されます。“ バッファサイズ ”の設定によりレイテンシーが変わります。

レイテンシーとは、コンピューターがノート・オン・メッセージを受信して、発音するまでの時間をいいます。レイテンシーは、サンプル数×バッファ数で決まります。この数値ができるだけ小さく、かつ安定して動作するように“ バッファサイズ ”を設定してください。

note “ レイテンシー ”の値は、バッファ・サイズで決まります。この値をできるだけ小さく、かつ動作が安定するように“ バッファサイズ ”を設定してください。

note オーディオ・インターフェイスの設定等については、オーディオ・インターフェイスの取扱説明書を参照してください。

MIDIの設定

1 “ MIDIの設定 ”タブをクリックします。
各MIDIポートの設定が表示されます。

2 MIDI INデバイス1、2、3の各ポートで使用するデバイスを選択します。
MIDI INデバイスは3つまで同時に扱うことが可能です。通常、これらのデバイスからの入力は、すべてマージされて扱われます。また、複数のポートを持ったデバイスが接続されている場合、同じデバイスのポートが複数表示されることがあります。

3 “ クロックマスター ”でMIDIクロックのマスターに使用するデバイスを選択します。
ここで選択したデバイスのMIDIクロックに同期します。デバイスを選択しない場合は、常にインターナル・クロックの動作となります。

各ポート設定に選択したいデバイスが表示されない場合は、以下のことを確認してください。

Win: 接続しているMIDIデバイスのドライバがインストールされていますか?

Win: コンピューターのコントロールパネルの「サウンドとオーディオ デバイス」に、接続したMIDIデバイスが認識されていますか?

Mac: アプリケーション・フォルダ→ユーティリティ→“ Audio MIDI設定 ”の“ MIDI装置 ”タブ・ページに、接続したMIDIデバイスが認識されていますか?

その他の設定

1 “ その他 ”タブをクリックします。
操作（ノブ操作法）と自動停止の設定が表示されます。

2 操作の“ ノブ操作法 ”で、ノブの操作方法を設定します。

回転: マウスのポインタをノブの指標（値を示すマーク）に移動し、ノブを回すようにドラッグすることで値が変更できます。また、設定したい値の位置をクリックすると、即座にその値に変更できます。

相対的に回転: ノブの任意の位置を回すようにドラッグすることで値を変更できます。回転のようにクリックして値を変更することはできません。

直線: ノブをクリックして上下にドラッグすることで値を変更できます。

3 “ 自動停止の設定 ”で、自動停止機能を設定します。
自動停止機能は、コンピューターのＣＰＵの負荷によって自動的にオーディオを停止する機能です。（「システム」メニューの中にある“ オーディオ停止 ”を実行したときと同じ動作です）
自動停止機能を使用する場合は、“ 自動停止を有効にする ”をチェックして、“ 負荷の割合の設定 ”で負荷のスレッショルドを設定します。動作中にＣＰＵの負荷がスレッショルドを超えた場合にオーディオが停止します。自動停止機能によってオーディオが停止した場合は、「システム」メニューの「オーディオ再生」を選びます。再びオーディオが再生されます。

頻繁にオーディオが停止するような場合は、同時発音数を減らすなどしてＣＰＵの負荷を軽くしてください。

自動停止機能を使用しない場合、可能な限りオーディオを再生し続けようとしますが、使用しているハードウェアによっては、オーディオの負荷が高くなったときにマウスの操作ができなくなるなどの不具合が発生します。

4 “ ＯＫ ”をクリックして環境設定を終了します。